

第5回日本医療安全学会学術総会 市民公開講座

(会場変更しました)

テーマ 日本の医療安全はどこまで進んだか?

日時 2019年2月9日(土)午後14時~17時

場所 東京大学本郷キャンパス 山上会館

法文1号館2階25番講堂

東京都文京区本郷7-3-1

参加費: 無料。事前登録は不要です。

目的: 日本で医療事故が国民的な話題となって20年を経ました。本市民講座の目的は、市民・医療者に対して日本の医療安全活動の実態を理解してもらい、会場の皆様からご意見をお聞きし、市民とともに患者安全の推進をいたします。

プログラム

13:00 受付開始

14:00 開会・座長: 許 俊銳

14:00-14:40 日本の医療安全活動の歴史を振り返って

許 俊銳 (東京都健康長寿医療センターセンター長)

14:40-15:20 日本麻醉科学会における医療安全への取り組みの歴史

稻田 英一 (日本麻醉科学会理事長)

15:20-16:00 私の医療安全活動への取り組みの歴史

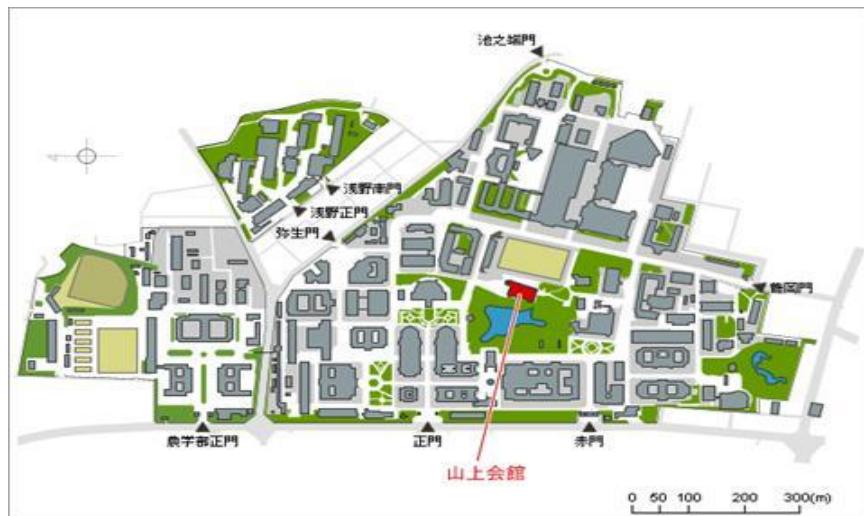
勝村 久司 (産科医療補償制度 再発防止委員会委員)

16:00-16:40 私の医療安全活動への取り組みの歴史

宮脇 正和 (医療過誤原告の会 会長)

16:40-17:00 総合討論

最寄り駅: 東京メトロ丸の内線・都営地下鉄大江戸線「本郷三丁目」駅から徒歩で約15分



事務局 第5回日本医療安全学会学術総会事務局

東京都文京区本郷4-7-12-102

電子メール: 5amt@jpscs.org tel:03-3817-6770

【講師紹介】

許 俊銳 (東京都健康長寿医療センター・センター長、日本医療安全学会・理事)

1949年5月1日出生(大阪市天王寺区)。東京大学卒業。元ハーバード大学医学部研究員(マサチューセッツ総合病院勤務)、元埼玉医科大学第一外科主任教授、埼玉医科大学名誉教授、元東京大学「重症心不全治療開発」講座特任教授、藤田保健衛生大学客員教授

日本人工臓器学会元理事長、日本心臓血管外科学会名誉会員、日本胸部外科学会名誉会員、日本移植学名誉会員、日本心不全学会名誉会員、日本医療安全学会理事、厚生労働省国産医療機器創出促進基盤整備等事業評価委員、医工連携コーディネータ協議会会长、医工連携協議会理事長、日本医療安全調査機構 調査支援医、三井記念病院評議員

第5回国際人工臓器学会(IFAO 2013年)会長、第3回日本医療安全学会学術総会総会長

稻田 英一 (日本麻酔科学学会・理事長、日本医療安全学会・理事)

1980年東京大学医学部医学科卒業。元ハーバード大学医学部講師・助教授。元帝京大学医学部麻酔科学講座教授。順天堂大学麻酔科学・ペインクリニック教授。順天堂大学医学部附属順天堂医院副院長。世界麻酔科学会(WFSA) Council(理事)。厚生労働省審議会委員(血液事業部会)。厚生労働省「医療ニーズの高い医療機器等の早期導入に関する検討会」委員。医薬品医療機器総合機構(PMDA)専門委員

勝村 久司 (産科医療補償制度 再発防止委員会・委員、日本医療安全学会・理事)

1990年12月に陣痛促進剤被害で長女を失ったのをきっかけに、医療裁判や市民運動に取り組む。

厚生労働省「医療安全対策検討ワーキンググループ」や「中央社会保険医療協議会」、群馬大学附属病院医療事故調査委員会等の委員を歴任。日本労働組合総連合会「患者本位の医療を確立する連絡会」委員。「医療情報の公開・開示を求める市民の会」代表、「全国薬害被害者団体連絡協議会」副代表。

主な著書に、「ぼくの『星の王子さま』～医療裁判10年の記録～」(幻冬舎)、「レセプト開示で不正医療を見破ろう!」(小学館)、「患者と医療者のためのカルテ開示Q&A」(岩波書店)など。

宮脇 正和 (医療過誤原告の会・会長)

1983年2月に次女を医療事故で亡くす。医療過誤裁判を闘い10年後病院の謝罪があり勝訴的和解。

1991年10月医療過誤原告の会設立に参加。2005年から会長として現在に至る。医療事故被害者の支援、医療事故調査制度が公平で実効性あるものとなるよう患者の視点で医療安全を考える連絡協議会副代表として運動を続けている。厚生労働省医療裁判外紛争解決機関(ADR)連絡調整会議構成員、東京都医療安全推進委員会委員、日本看護協会医療安全推進特別委員会委員



一般社団法人 日本医療安全学会 <http://www.jpscs.org/>

第5回学術総会

<http://jpscs.org/5thJPSCS/>